



学校教育目標

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
北海道教育推進計画
豊浦町学校教育推進計画

- 進んで学び、正しく判断する生徒
- 豊かな心を持ち、協力して生活を高める生徒
- たくましい心身を持ち、最後までやりぬく生徒

【進取】
【共創】
【鍛錬】

地域・学校・生徒の実態
教職員・保護者・地域の願い
時代の要請

目指す生徒像

心身ともに健康で、夢の実現に向けて粘り強く努力し続ける生徒

目指す学校像

不易と流行を見極め、生徒が自分の成長を実感することができる学校

目指す教師像

教育者として研鑽に勤しみ、連携・協働しながら課題解決に取り組む教員

学校経営基本方針

「子どもの命を守り、社会に出たときに活躍できる生徒の育成」

育成を目指す三つの資質・能力

※ 赤字・下線部が本年度の最重点課題

思考を働かせ表現する力

- ・「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善
- ・ICTを活用した個別最適化と協働的な学習の推進
- ・「書くこと」「説明すること」を意識した授業づくり
- ・授業改善に直結する公開研究会の開催（胆振教育研究所指定）
- ・系統性や教科横断的な視点に基づくカリキュラムデザイン

他者を思いやり自己を大切にする力

- ・「居場所づくり」「絆づくり」を軸とした自己有用感を高める教育活動の推進
- ・系統性や発達段階を意識した道徳教育の充実
- ・いじめ・不登校等への組織的かつ迅速な対応とSC・SSWとの連携強化
- ・危機対応能力の育成を図る防災教育の充実
- ・地域貢献力を育むふるさと学習の推進
- ・インクルーシブ教育を主体とした特別支援教育の充実

やり抜く力・挑戦する力

- ・生徒の主体性に基づく生徒会・委員会活動の充実
- ・目標や課題に立ち向かう場の設定を意識した教育活動の推進
- ・時間と共に「質」に焦点を当てた家庭学習の取組強化・家庭との連携
- ・9年間の系統性を意識した学習・生活習慣の改善（小中連携教育の推進）
- ・キャリア・パスポートに基づく発達段階に応じたキャリア教育の充実

自己有用感を高める

教育活動の
基盤

「居場所」と「絆」をつくる

- ・「存在感・承認・貢献」のある集団づくりと授業づくり
- ・生徒同士の望ましい人間関係の構築

- ・思いやりのある学級集団
- ・適切な課題の提供
- ・授業が最大の「居場所」
- ・主体は生徒、教師は黒子

評価

- ・全国学力・学習状況調査の平均正答率全国平均以上
- ・CRT検査の平均正答率全国平均以上
- ・授業の振り返りのノートまたは振り返りシートの記述内容
- ・生徒へのアンケート（学習、いじめ）
- ・学校評価（自己評価）

※先生は悩みや相談を親身になって受け止めてくれる、授業の「ねらい」「課題」の提示と「まとめ」「振り返り」の徹底、「書くこと」「説明すること」を意識した授業、目的を意識した家庭学習の取組⇒各3.2以上（4段階中） 平日一日当たり、ゲーム・SNSの時間は2時間未満⇒70%以上、10分以上の読書⇒60%以上

【PDCAサイクルからAARサイクルへの転換】

新型コロナウイルス感染症をはじめ、予測困難な時代に突入した現在、教育課程をAnticipation（見通し）—Action（行動）—Reflection（振り返り）のサイクルで推進していきます。ある程度の見通しが立ったら、まず行動し、振り返りながら修正を加え、進化させていきます。